

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成20年5月15日(2008.5.15)

【公表番号】特表2003-528614(P2003-528614A)

【公表日】平成15年9月30日(2003.9.30)

【出願番号】特願2001-570795(P2001-570795)

【国際特許分類】

C 12 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/29	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
A 6 1 P	31/12	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/06	(2006.01)
C 12 N	5/10	(2006.01)

【F I】

C 12 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	31/7088	
A 6 1 K	39/00	H
A 6 1 K	39/29	
A 6 1 P	31/04	
A 6 1 P	31/12	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	37/06	
C 12 N	5/00	B

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月27日(2008.3.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

動物において対象となる抗原性ポリペプチドに対する免疫応答を高める組成物の製造のための、プロセシング成分と該対象となる抗原性ポリペプチドとを含む融合タンパク質をコードする核酸構築物の使用であって、該核酸構築物が宿主細胞で発現される場合に、該プロセシング成分が該抗原性ポリペプチドの異種プロセシングをもたらす使用。

【請求項2】

プロセシング成分が、膜およびサイトゾル画分に対する抗原性ポリペプチドの異種細胞内局在化を可能にするペプチドである、請求項1に記載の使用。

【請求項3】

プロセシング成分が、E型肝炎ウイルスのPORF2タンパク質のN末端アミノ酸1~100に由来し、かつ該N末端アミノ酸1~100から選択された5~100個の連続するアミノ酸の配列を含む、請求項1または2に記載の使用。

【請求項4】

プロセシング成分が、配列番号：2もしくは配列番号：3に記載のアミノ酸配列またはそ

れに対して少なくとも50%、もしくは少なくとも60%、もしくは少なくとも90%の類似性を有するその機能性変異体を含む、請求項1から4のいずれか一項に記載の使用。

【請求項5】

プロセシング成分が、配列番号：5もしくは配列番号：6に記載のヌクレオチド配列またはそれに対して少なくとも50%、もしくは少なくとも60%、もしくは少なくとも90%の類似性を有するその機能性変異体によってコードされる、または中程度のストリンジエンシーの条件下で配列番号：5もしくは配列番号：6にハイブリダイズ可能な配列によってコードされるアミノ酸配列を含む、請求項1から3のいずれか一項に記載の使用。

【請求項6】

対象となる抗原性ポリペプチドがウイルスカプシドポリペプチドであり、かつプロセシング成分が、配列番号：5もしくは配列番号：6に記載のヌクレオチド配列またはそれに対して少なくとも50%、もしくは少なくとも60%、もしくは少なくとも90%の類似性を有するその機能性変異体によってコードされる、または中程度のストリンジエンシーの条件下で配列番号：5もしくは配列番号：6にハイブリダイズ可能な配列によってコードされる、請求項1から5のいずれか一項に記載の使用。

【請求項7】

核酸分子がプロセシングペプチドと抗原性ポリペプチドとを含む融合タンパク質として宿主細胞で発現される場合に、宿主において対象となる該抗原性ポリペプチドに対する免疫応答を高める、または対象となる該抗原性ポリペプチドの異種プロセシングをもたらす該プロセシングペプチドをコードするヌクレオチド配列からなる単離核酸分子であって、該プロセシングペプチドが、E型肝炎ウイルスのPORF2タンパク質のN末端アミノ酸に由来し、該N末端アミノ酸1～100から選択された5～100個の連続するアミノ酸の配列を含む、単離核酸分子。

【請求項8】

プロセシング成分が、配列番号：5もしくは配列番号：6に記載のヌクレオチド配列またはそれに対して少なくとも50%、もしくは少なくとも60%、もしくは少なくとも90%の類似性を有するその機能的変異体によってコードされる、または中程度のストリンジエンシーの条件下で配列番号：5もしくは配列番号：6にハイブリダイズ可能な配列によってコードされる、請求項7に記載の単離核酸分子。

【請求項9】

プロセシング成分が、配列番号：2もしくは配列番号：3に記載のアミノ酸配列またはそれに対して少なくとも50%、もしくは少なくとも60%、もしくは少なくとも90%の類似性を有するその機能的変異体を含む、請求項7に記載の単離核酸分子。

【請求項10】

プロセシング成分と少なくとも一個の抗原性成分とを含む融合タンパク質をコードするヌクレオチド配列を含む単離核酸構築物であって、該プロセシング成分が、請求項7から9のいずれか一項に定義されるか、またはそこに定義された核酸分子によってコードされ、かつ該核酸構築物が宿主細胞で発現される場合に、該プロセシング成分が抗原性ポリペプチド成分の異種プロセシングをもたらし、その結果、抗原性ポリペプチドに対する免疫応答を高める、単離核酸構築物。

【請求項11】

請求項7から9のいずれか一項に記載の核酸分子、または請求項10に記載の構築物をトランسفェクトした単離細胞。

【請求項12】

抗原提示細胞である請求項11に記載の細胞。

【請求項13】

請求項7から10のいずれか一項に記載の核酸分子、または構築物を含む、核酸ワクチン。

【請求項14】

ウイルスレプリコンを含む、請求項13に記載の核酸ワクチン。

【請求項 1 5】

動物における免疫応答を調節するために用いられる、請求項10に記載された核酸構築物ならびに1つまたは複数の薬学的に許容される担体および／または希釈剤を含む組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 4】

参考文献一覧

1. Anderson, D., et al. (1999) *J. Virological Methods* 81: 131-142.
2. Gurunathan, S. et al. (2000) *Ann Rev Immunol.* 18: 927-74.
3. Forns, X., S. U. et al. (1999). *Vaccine*. 17: 1992-2002.
4. von Heijne G. et al. (1989) *Protein Eng.*, 2: 531.
5. Khromykh, A. A., et al. (1997). *J Virol.* 71: 1497-505.
6. Li, F., et al. (1997) *J. Medical Virology* 52: 289-300.
7. Riddell, M., et al. (2000) *J Virol.* 74: 8011-8017.
8. Rodriguez F., et al. (1997). *J Virol.* 71. 8497-503.
9. Rodriguez, F., et al. (1998) *J Virol.* 72: 5174-81.
10. Torresi, J., F. et al. (1999). *J Gen Virol.* 80: 1185-8.
11. Varnavski, A. N. et al. (1999) *Virology*. 255: 366-75.
12. Varnavski, A. N. et al. (2000). *J Virol.* 74: 4394-403.
13. Wolff, J. A. et al. (1990) *Science*. 247: 1465-8.